

最高の1日：龍馬脱藩マラソン大会 (A Perfect Day - Ryoma Dappan Marathon)

季節外れの台風が栲原を直撃するかもしれないということで、今年の龍馬脱藩マラソン大会は開催が危ぶまれていました。でも幸いなことに台風は逸れ、結果的に当日は最高の天候に恵まれました。これは僕としても、とてもうれしいことでした。1年前にも、お手伝いをしながら楽しく大会当日を過ごしたことを覚えていたからです。去年と同じように、元気のいい栲原学園の生徒たちや何人かの先生方と一緒に、英語と日本語で時々おしゃべりをしながら、お手伝いをしました。もちろん、いちばん大事な役目は、ゴールまであと数百メートルに迫ったランナーたちに、大きな声援を送ることでしたけども。

そういうわけで、当日の主なお手伝いは、ゴールに向かうランナーたちを励ますためにできる限りの声援を送るという、とてもシンプルなものでした。僕は生徒たちと一緒に、ゴール直前の沿道に陣取っていました。近づいてくるランナーたちの様子を見てみると、むしろこちらが励まされるようでした。その表情からは、本当にさまざまな感情を読み取ることができたからです。疲労。体の痛み。幸福感。それに、これで終わりだ、という安堵感……。最後まで気の緩みを見せないランナーは少なく、多くの参加者たちは楽しそうに、沿道のギャラリーと笑顔でハイタッチをしながら、ゴールに向かって行きました。

でも完走しようとしている全員が共通して抱いていた気持ち……。それは、自分がゴールラインまでもう1分足らずの地点にいること、つまり、この大会に参加するために積み重ねてきた数か月、ひょっとしたら数年間にわたる準備がこれで報われるんだ、という実感だったように思えます。参加者のみなさんの、そうした頑張りの最後の瞬間に立ち会えたのは、素晴らしいことでした。

今年、僕はランナーとしての参加はかないませんでした。それでも一生懸命、全力で応援することで、去年に引き続き、再び貴重な時間を過ごすことができました。栲原学園の生徒たちや先生方と一緒にお手伝いできたことも素晴らしいことでした。ふりかえってみれば、僕自身としても最高の1日となりました。もしかしたら、一生の思い出になったのではないかと、自分では思っています。



坂本龍馬も準備万端です！